

■跡見花隠 教育者。生涯独身を通し、女子教育に専念する一方、画家としても一家を成した。

あとみかけい

勸進帳初演・1840＝ 摂津国西成郡木津村で、寺子屋を営む歌人跡見重敬の次女に生まれる。本名は瀧野。母は幾野。跡見家は祖父三右衛門の代までは大庄屋をつとめていたが、天保の大飢饉後の一揆が相次ぐ時代に、家運は衰えて貧しくなり、跡見家の再興を願う両親の期待を一身に担って、

順天堂始・・・1843＝ 3歳：早くも両親に書を習い始め、

阿部正弘首座1845＝ 5歳：「孝経」を暗誦し、

・・・1847＝ 7歳：酒屋亀の井の見世看板を書いて人を驚かせ、

北斎没・・・1849＝ 9歳：

寺子屋で学ぶだけでは満足できず、

尊徳報徳論・1851＝11歳：大坂の石垣東山について円山流の画を学び、ついで天王寺の槇野楚山に学んだ。

万次郎帰国・1852＝12歳：早くも扇画などの揮毫をし、

ペリー来航・1853＝13歳：

安政大地震・1855＝15歳：この頃には屏風、襖絵を描いた。裁縫・琴・三味線もひと通り身につけた。

松下村塾・・・1856＝16歳：京都に行き、伯父の家に身を寄せ、扇画絵付けのアルバイトをしながら、画を円山応立、中島来章、日根対山に、漢学を宮原節庵、後藤松陰に学び、天性の才能と勉学への情熱で、いずれも抜群の成績を修め、

五ヶ国条約・1858＝18歳：

安政の大獄・1859＝19歳：***大坂中之島で私塾を開いていた父が、公卿姉小路家に仕官することになったため、帰郷。その経営を受け継ぎ、独力で女子教育に着手。花隠を慕って入塾する者が数十名に及び、のちの跡見学園の出発点となる。**

桜田門外変・1860＝20歳：

薩摩藩士密航1865＝25歳：塾を京都東洞院二条上ルに移し、

門下生に稽古をつける傍らで自らも書画や漢学の修行を続け、名声は広がって、生徒数は100人を超し、

大政奉還・・・1867＝27歳：

明治維新・・・1868＝28歳：明治維新となったことから、

初の日刊新聞1870＝30歳：京都の家塾を閉じて東京に移住、神田三崎町で私塾を開く。

すでに京都で女子教育者として名声の高かったことから、多くの上流家庭の子女が集まり、赤坂御所において女官の教育にもあたるが、私塾では限界があり、

明治6年政変 1873＝33歳：

佐賀の乱・・・1874＝34歳：神田中猿楽町に校舎を新築し、

初の民間工場1875＝35歳：***{跡見学校}を開校、実質的な跡見女学校のスタートを切る。**

三つの内乱・1876＝36歳：

西南戦争・・・1877＝37歳：「四季花卉図」、

当時、女学校としては竹橋女学校(女子師範学校の前身)と横浜の外人経営のフェリス女学校、があるのみであった。学科内容は国語、漢籍、和歌、算術、絵画、裁縫、琴曲、点茶、插花であった。伝統的な女子教養科目と家族的な寄宿舎訓育によって皇族や華族などの支持を得、経営は順調に伸びた。女学生の服装改良を唱えて紫袴の制を定め、また運動踊りと称して体育を女子教育にはじめて導入、話題にもなった。

明治14年政変1881＝41歳：

新体詩抄・・・1882＝42歳：「秋虫果蔬図」などには、並々ならぬ画才が示されている。

内閣発足・・・1885＝45歳：学科目に英語を加え、教師にはアメリカ人のワツソン夫人を招聘。

華族女学校の創設前で宮家の子女の入学が増加し、校舎が手狭になったため、

国民之友始・1887＝47歳：「東京日日新聞」に突然死亡広告が出、吊問客が集まる珍事。何者の仕業ともわからぬままとする。

初の対等条約1888＝48歳：岩崎弥之助の助力を得て、小石川柳町に校舎を移し、

帝国憲法発布1889＝49歳：

帝国議会始・1890＝50歳：開学以来はじめての卒業式を挙行。

大本教・・・1892＝52歳：以後8年間に、音楽、地理、歴史、理科、家政学、家政簿記を加え、

日清戦争始・1894＝54歳：

柳町移転後も生徒数は増加の一途を辿り、校舎の改築も度々なされ、

教科書疑獄・1902＝62歳：これ以前に***校則を改め、全課程を5ヵ年とする。女子教育の功により、勲六等宝冠章、**

日比谷公園・1903＝63歳：

日露戦争終・1905＝65歳：

明治天皇没・1912＝72歳：

大正政変・・・1913＝73歳：財団法人{跡見女学校}となり、

21ヶ条要求・1915＝75歳：女学校として最初の制服を制定。

本格政党内閣1918＝78歳：***本科卒業生は高等女学校と同等以上の学力あるものと文部大臣から指定されるに至ると、**

ベル仁条約・1919＝79歳：高齢のため**校長をやめ、養女の李子に跡を譲り、名誉校長となる。**

原敬首相暗殺1921＝81歳：

治安維持法・1925＝85歳：勲五等瑞宝章を受章して、

日本時代始・1926＝86歳：没した。

インターネット跡見学園ホームページ、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、「日本の女性」、板橋区立美術館特別展「江戸の閨秀画家」、